

雜 録

問島地方貿易状況 (昭和8年4月~6月及上半期累計)の**内金屬及機械輸入状況** (昭和8年12月8日附在問島、永井總領事報告) 金屬類 本期間各種金屬及鐵道用諸金屬類をも含ませしめて15萬6,000餘國幣圓にして、1月以降累計38萬6,000餘國幣圓に達し、内レール其他鐵道方面に使用せられたるもの約20萬乃至25萬國幣圓に達すべしと認めらる。

車輛及材料 本期間の輸入額6萬4,458國幣圓にして、トラック及バス15臺の輸入を見たり、其他自轉車及其部分品等約1,700國幣圓の輸入あり、其他雜貨部門に掲記せられあるが自動車及自轉車のタイヤ類3,700餘國幣圓あり、此種自動車及自轉車の部分品は將來尙増進の見込ありと認めらる。而して上半期を通じ是等トラック、バス及自轉車の部分品のみの輸入額累計は約1萬7,000餘國幣圓に達し居れり。

金屬製品 本期間輸入額3萬8,000餘國幣圓、1月以降累計7萬7,000餘國幣圓を見たり。

機械及工具 各種機械工具の本期間輸入額4萬1,000餘國幣圓、1月以降累計6萬6,000餘國幣圓を示せり。内手工具の輸入額上半期間約2萬5,000餘國幣圓、機械工具約1萬3,000餘國幣圓なり。

(海外經濟事情9年第22號)

蘭領東印度輸出入品評價表の抜萃 (1934年第2期) (昭和9年3月24日附在バタヴィヤ、越田總領事報告) 1934年第2期(自4月至6月) 蘭領東印度税關の輸出入品評價表次の通りにして輸出品は變りなきも輸入品は本表に於て著敷改訂あり新規挿入せられたる種目246種、評價引上408種にして評價引上の内譯次の如し。

25%上 199, 20%上 30, 15%上 37, 10%上 124, 5%上 18

本改訂に依り本邦品の評價に於て歐米品との値段の差を失ひ之に近づけられ從來に比して不利となれり。

輸入品評價 (鐵、鋼並にアルミニウム製品、銅並眞鍮製品)

鐵、鋼並アルミニウム製品

1	アルミニウム製品 皿、コップ、辨當箱、フィンガー ボウル、洗面器、鍋、手桶	疋	1.60	新挿入
2	船 錨	同	0.60	同
3	鐵管 ユニオン 塗らざるもの	同	0.11	同
4	同 同 塗りたるもの	同	0.16	同
5	亞 鉛 板 浪型 BG 26 又は其以下 (厚 0.5 耗内外又は其以上)	同	0.11	0.10
6	同 浪型、BG 26 以上 (厚 0.5 耗以下)	同	0.15	0.14
7	屋 根 釘 亞鉛引	同	0.25	新挿入
8	扇閉具 (打物) 普通握付	同	0.60	同
9	刺 付 針 金 卷	同	0.10	0.09
10	釘 頭除長1吋又は其以上、樽入	同	0.07	新挿入
11	ド ラ ム 亞鉛引 せるもの せざるもの	同	0.16	同
12	バケツ類 亞鉛引 塗りたるもの (蠟帳 の扇等に用ひらる、 (節用のものを除く)	同	0.30	0.25
13	金 網 (節用のものを除く)	平方米	0.30	0.27
14	鐵 細 工 品 蝶番、門等 (彎曲蝶番を除く) 塗るもの、塗らざるもの (箱用蝶番は重量に拘らず除く、 1打1疋以上なるときは其他の 製品を除く)	100疋	30.00	27.00

瑛瑛鐵器 (日本品とありし特記本表に於て廢せらる)

15	皿、湯呑、フィンガーボール、洗面器	疋	0.35	編 替
16	辨當箱、氷入、濾器、水桶、便器	同	0.50	同
17	ミ ル ク 入	同	0.60	新挿入
18	壁 貯 水 器	同	0.75	同
	農 具 柄のあるもの、無きもの			
19	鎌、斧、鉞	同	0.35	同
20	鋏、スコップ、鋤	同	0.30	同
21	鶴 嘴	同	0.16	同
22	箱閉具 (打物) 普通	同	0.50	同
23	鎖、船鎖、荷物鎖等 (浮鎖を含まず)	同	0.20	同
24	犬の鎖 ニッケル又はクローム鍍 金せるもの、せざるもの	同	0.30	同
25	焔 爐 木炭用	同	0.25	0.23
26	料理壺 内部エナメル塗	同	0.30	新挿入
27	掛 金 亞鉛引 したるもの せざるもの	同	0.18	同
28	クラウン・キルク (瓶の栓) 塗りた るもの、塗らざるもの	1,000箇	1.75	同
29	縫針 (ミシン針を除く) 包入	風袋込疋	1.20	同
30	同 (同) 包以外の包装箱入	同	1.40	同
31	鍋 支那製、鑄物	100疋	40.00	35.00
32	同 其他 同 錫付、エナメル に非ざるもの	同	15.00	12.00
33	同 支那又は暹羅製、打物、料理用	同	65.00	54.00
34	天上鐵材 浪又は肋なるもの、な きもの、飾付	疋	0.11	新挿入
35	木 捻 子 (螺旋)	同	0.30	同
36	網 索 纖維質の芯のあるもの 無きもの	同	0.30	同
37	火 熨 斗 普通、木炭用	同	0.13	同
38	桶 普通 丸又は階圓、亞鉛引	同	0.45	同
39	硝子切具 ニッケル又はクローム 電力に依らざるもの	打	12.00	同
40	魚 釣 針	疋	2.00	同
41	便所貯水槽	同	0.20	同

銅 並 眞 鍮 製 品

1	パイプ 生、黃銅	疋	0.65	新挿入
2	同 同 赤銅	同	0.70	同
3	同 同 錫引、黃銅	同	0.80	同
4	蝶番 (普通平物)	同	1.80	1.50
5	木螺旋釘、銅、普通	同	1.60	1.40

(海外經濟事情9年第22號)

伊國アルミニウム工業の現状と製品の使用振及其貿易狀態 (昭和9年4月16日附在未蘭、井上領事報告)

現今伊國のアルミニウムは當國鑛業中最重要なるものの一にして、殊に近年本品の國內生産高増加し、從來は輸入國なりしものが、1931年以來輸出超過に變じ、其用途の擴大と共に益益斯業の發達に力を注ぎつつある實情なるが、當國斯業の推移を検するに、歐洲大戰前迄は中伊アブルツツオ地方にアルミニウム原鑛たるボーキシット鑛床を有し居たるのみにして、而も該地方の原鑛の採掘は地勢上伸々難儀なりし爲、差して當國の鑛業界に重要性を認めらるるに至らなかつたが、大戰後イーストリア地方の領有と共に同地方の原鑛採掘の増大に力を得、爾來頓に斯業の發達を見るに至つた。1913年以來1932年迄の、アルミニウム原鑛たるボーキシットの採掘數量の動態を見るに次の如し。(噸)

1913年	5,000	1930年	143,000
1920年	13,100	1931年	67,570
1925年	195,000	1932年	86,553
1928年	162,000		

而して此ボーキシット鑛の大部分は、アルミニウム製造に向けられるもので、當國のアルミニウム製造は最初前記アブルツツオ地方の工場、Bayer 式に依て爲されたものであるが、最近は當國全般概ね Haglund 式を用ひ、最近年額平均 1 萬 2,000 噸のアルミニウムを此ボーキシット鑛より製造して居る、其他當國の火山系地方より（主として中部伊太利）レウシット (Leucite) 鑛を採掘し、其産額約 4 萬 4,000 噸に達し、之亦アルミニウム及加里鹽の製出に用ひられ、當國アルミニウム業界に貢献するところ大なるものあり、今や是等アルミニウム原鑛の伊國の産額は唯に國內需要を充たすのみならず、海外輸出をなすに充分となつたのである。

次に伊國のアルミニウムの生産状態を觀るに、1 06 年アブルツツオ地方に於てアルミニウムの生産を始めたを嚆矢とし、當時は 1 箇年平均 800 乃至 1,000 噸のアルミニウムを産出して居たが、1917 年には更にヴェルヌーヴ地方に此種の製造工場設立され、之亦年額平均 1,000 噸を産出するに至るが、要するに 1928 年迄の當國産額は

年次	生産高	輸入高	輸出高	國內消費量	國內需要を充たすに充分ならず、左の如き状態であつた。
1913	800 ^t	300 ^t	100 ^t	1,000 ^t	
1923	1,500	1,832	153	3,200	
1924	2,100	2,774	1	4,500	
1925	1,900	6,500	10	8,400	
1926	1,900	2,834	1	4,700	
1927	2,500	3,642	280	5,800	
1928	3,600	314	186	4,200	

而して 1929 年になつて南部伊太利モーリに、新たにアルミニウム製造工場の勃興に連れ、ヴェニス地方のポルト・アルゲラに新工場の設立を見るに至り、此二地方の新設工場に依つて漸次國內消費量を凌駕し、加ふるに輸出高も増大するに至る、其動態は即ち次の如し。

年次	生産高	輸入高	輸出高	國內消費量	要するに伊國のアルミニウムの生産高は、最近 10 箇年間に約 10 倍の増大を見たる譯である、一方世界の本品生産高は同期間中僅々 3 倍の増加を見たるに過ぎない。
1929	7,000 ^t	2,386 ^t	121 ^t	9,300 ^t	
1930	8,000	921	634	8,200	
1931	11,109	1,698	3,018	7,400	
1932	13,413	406	2,485	5,500	
1933	12,072	273	3,947	—	

然らば伊國ではアルミニウムを如何なる用途に消費しつつあるかと云ふに、勿論アルミニウム地金其儘の使用も多種に亘て居るが、主として他の金屬との合金として使用せらるる量が多い。

(イ)アルミニウム地金(99~99.5%)は、其大部を機械器具及食料品容器の製造に用ひられて居る、例へば、麥酒製造機、牛乳淨清機及乾酪製造機を始めとし、臺所道具の製造等然りである、其他食料用油の製造及蒸溜用機械、エチル・アルコール蒸溜用機械、人絹製造に用ゆる絲卷、火藥、染料、藥劑、香水等の製造用機械及容器として使用せられて居る。

(ロ)アルミニウム合金は其重量軽く、而も強靱なれば主として運輸業界に使用せられ、近年飛行機のモーター又は軍艦及商船の船體等に使用せらるるもの多く、後者に於ては特にアルミニウムが鹽分に耐え錆止めの役をなす點に於て重寶とされて居るのである、其他自轉車の部分品を始めとし、自轉車及自動車の部分品製造に多量を使用しつつあり、又汽車、電車、エレベーター及起重機等の製造にも之を使用して居る。

(ハ)其他アルミニウム合金の特殊なるものは建築界でも多量に使用し始められ、例へば屋根、錠、雨戸、手摺、門、瓦斯管、ステイム放熱器等に使用せられ、其他屋内の裝飾、家具、鑄像等の製造に使用せられて居る。

(ニ)次に電氣工業界でも最近銅に代てアルミニウムの使用盛に行はれ、(勿論合金として使用)例へば高壓電線、地下線、電氣モーター等に使用せられ、殊に鋼鐵とアルミニウムの合金は 20 萬ボルト迄の電壓に耐へると稱せられて居る。

其他電信、電話器及ラジオ器械に使用せらるるものも多い。

(ホ)其他諸種の機械例へば製紙機、製紙機、光學機、印刷機、望遠鏡、寫眞機、ピアノ、寢臺等の製造に使用せられて居る、尙アルミニウム箔は保温器又は保冷器用として用ひられつつあり、アルミニウム粉末は錆止として使用せられて居る。

次に伊國のアルミニウム及其合金製品の海外輸出状況を査するに次の如し。(單位數量キントール、價格利)

種別	1931年		1932年		1933年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
屑物	2,194	1,315,601	175	66,935	54	9,068
塊	26,713	20,072,365	12,946	9,604,756	38,340	26,887,982
鑄たるもの	49	123,778	49	11,627	25	21,772
箔及板	519	829,036	291	398,141	102	143,812
線及管	28	14,090	8	12,588	12	12,156
アルミニウム製品	647	1,121,347	1,656	2,471,991	935	1,433,950

(海外經濟事情 9 年 22 號)

英國輸入シエラ・レオヌ産鐵鑛事情 (昭和 9 年 4 月 16 日附在英、松山商務參事官報告)

シエラ・レオヌ植民地の地質調査部が、マラムパに於て鐵鑛の所在地を發見したのは、1927 年のことであつたが、同年 11 月より一英國會社の手に依りて、3 箇年の日子を費し、鑛床の探査が行はれた。1930 年に至つて、英國植民地開拓計畫調査委員が、同事業進展のため、50 萬磅の融資を勸奨するに及んで、資金供給の問題も解決し、同年シエラ・レオヌ開拓會社の設立を見ると共に、前記英國會社の事業を繼承することとなり、鑛石發掘事業は展開の域に入つたのである。鑛床の所在地マラムパと、搬出港たるペペルの間は 52 哩あり、此間の鐵道敷設事業は、1933 年 3 月に完了した。ペペルは、フリータウンより 15 哩を距つる港であるが、鑛石積込に使用する埠頭は、低潮時にも 30 呎の水深を有して居り、鑛石貯藏庫の貯藏能力は、7 萬 5,000 噸で、其處からコンペーヤに依り、船のホルドに鑛石を積込む仕組となつて居る由である。

シエラ・レオヌの鐵鑛は、印度産のものと同型に屬し、分析の結果、ドライ・アイアン平均 57%、燐 0.04% を含有し、鑄物用銑及鹽基性平爐銑鐵の製造原料として好適なることが確認せられ、常時英國其他の製鐵國に於て、販路を求むること容易なりと云はれて居る。

同植民地鐵鑛床の開拓は、前に述べたやうな経過に依て進展したが、實際に鑛石の出荷が開始せられたのは、昨年 9 月のことで、ペペルより積出した 8,000 噸の鐵鑛が、英船 Hindpool 號に依り、グラスゴーへ揚げられたのが嚆矢である。爾來本年 2 月迄に、約 10 隻の船に依り、英國向として積出された鐵鑛量は、8 萬噸に達して居るが、以上の様に順調に輸出が伸長したのは、最近英國鐵鋼業の生産が、好轉状態を持續して居ること、關聯して居るのは勿論で、試みに英國鐵鋼生産状況を示す數字の 1 箇年比較を見ても、鑛石消費量増加の趨勢を窺知し得るであらう。

種別	1934 年 3 月	1933 年 3 月
英國銑鐵生産高	503,600 ^t	332,200 ^t
同粗鋼生産高	829,700	577,700

以上に示すが如き英國内斯業の復興に伴ふ鑛石需要増加傾向に刺激せられ、西阿産鐵鑛の輸出状態も順調に發展した譯であるが、鐵鑛石は元來無稅品目表に包含せられ居るため、別に西阿植民地産品なるの故を以て、特惠的待遇を受けては居らざるも、之を西班牙、アルゼリー産品に比すれば、運賃の點で多少値が騰るも、競争には有利な點があると云ふ。最近ペペルよりグラスゴー、ミドレスボロー、イミンガム等の諸港で備船した例に依ると、吨當 9 志 3 片より 9 志 9 片について居り、之を南部西班牙及北阿よりの平均運賃 6 志 3 片、北部西班牙ビルバオよりの運賃 4 志 9 片に比すれば、シエラ・レオヌ産出の鑛石は、運賃に於て多少割高となつて居る。

英國輸入の外國産鐵鑛は、年約 500 萬噸と云はれ、主として西班牙、アルゼリー、スカンジナビア等の諸國より供給を仰ぎつつあるが、西阿植民地産品の輸入が増進すれば、自然同地向英國品の輸出も發展の機會を得る譯であるからランカシャ方面の當業者は、多大の關心を以て、將來の進境を待望して居る實状である。他方英國船舶界に取ても、西阿植民地からの新貨物の出現は、慶賀すべき事象として迎へられて居る。蓋し前記シエラ・レオヌ開拓會社は、今迄の處鐵鑛の輸送には、英國船のみを利用する方針を取つて居り、今後も此の方針は持續せらるるものと見て居るからである。

(海外經濟事情 9 年 23 號)

昭和9年外國銑輸入高表 (單位噸) (銑鐵共同販賣會社)

目次	輸 出 國 名						計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典	其 他	
1	10,736	102			—	—	10,838
2	13,563	274			32	—	13,869
3	11,304	71			—	306	11,681
計	35,603	447			32	306	36,388

昭和9年3月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

	3 月 中	前 月	前年同月	1 月 以 降 累 計	
				昭 和 9 年	昭 和 8 年
				金 (gr)	1,234,663
銀 (gr)	17,976,318	16,545,697	15,797,849	50,510,698	41,781,175
銅 (kg)	5,882,867	5,386,343	6,586,428	16,305,056	17,685,819
硫 黃 (tons)	9,727	8,255	7,968	26,645	22,554
石 炭 (tons)	3,161,848	2,743,679	2,579,488	8,759,799	7,103,978
油 (原油) (100l)	173,235	157,668	185,888	509,882	545,624
セメント (tons)	426,957	354,888	411,534	1,174,247	1,115,212
過 燐 酸 石 灰 (")	105,608	95,874	111,415	309,510	313,872
硫 安 (")	58,187	52,771	52,253	167,383	147,824

主要製鐵所に於ける1月分鐵鋼材生産高調 (單位噸) (-減)

	1 月 分			
	昭和9年	昭和8年	增	減
銑 鐵 { 内 鮮	160,066	110,452	49,617	44%
滿 洲	39,352	38,518	834	2
普 通 鋼	278,299	221,286	57,013	25
販 賣 向 鋼 片	6,230	5,806	424	7
同 シートバー	12,104	14,251	-2,147	15
鍛 鋼 品	5,424	2,958	2,466	83
普通鋼壓延鋼材	5,206	175,182	40,024	22

壓延鋼材内譯

	1 月 分			
	昭和9年	昭和8年	增	減
厚 7mm 以下鋼板	2,881	—	2,881	%
の 他 鋼 板	16,506	20,878	-4,372	21
力 鋼 板	45,497	30,428	15,069	49
軋 棒	49,450	44,206	5,244	11
形 鋼 鋼 條	27,946	29,192	-1,246	4
軌 鋼 條 材	30,456	19,883	10,573	53
線 鋼 材	31,441	20,383	11,058	54
鋼 管	7,873	7,981	-108	1
其 他	3,156	2,231	925	41

主要製鐵所に於ける4月分鐵鋼材生産表 (單位噸)

(商工省鑛山局)

- 減

品 目	4 月 分			1 月 以 降 累 計			
	昭和9年	昭和8年	比較増減	昭和9年	昭和8年	比較増減	
銑 鐵 { 内 地 朝 鮮	158,805	119,894	38,911	620,435	453,595	166,840	36%
滿 洲 鋼 片	39,623	37,043	2,580	154,374	150,097	4,277	3
普 通 鋼	312,369	252,264	60,105	1,200,112	965,690	234,422	24
販 賣 向 鋼 片	8,248	6,930	1,318	29,589	43,216	-13,627	31
同 シートバー	14,161	10,551	3,610	52,916	48,287	4,629	9
鍛 鋼 品	5,240	3,998	1,242	21,637	14,769	6,868	46
普通鋼壓延鋼材	258,095	193,837	64,258	936,189	768,134	168,055	21

普 通 鋼 壓 延 鋼 材 内 譯

厚 0.7mm 以下鋼板	25,487	26,131	- 644	96,100	102,308	- 6,208	6
の 他 鋼 板	55,296	37,732	-17,564	191,963	149,427	42,536	28
力 鋼 板	4,171	—	—	13,375	—	—	—
軋 棒	65,675	48,796	16,879	211,956	194,390	17,566	9
形 鋼 鋼 條	32,286	28,108	4,178	121,412	112,933	8,479	7
軌 鋼 條 材	30,280	18,983	11,297	121,711	74,744	46,967	62
線 鋼 材	29,553	21,111	8,442	125,153	84,305	40,848	48
鋼 管	10,708	10,277	431	40,826	39,371	1,455	3
其 他	4,639	2,699	1,940	13,693	10,656	3,037	28

內外最近刊行誌參考記事目次

The Foundry, April, 1934.

- Ford Foundry Casts V-8 Engine Crankshafts. Pat Dwyer. pp. 14-17.
Melting Gray Iron in Air Furnace. Duncan P. Forbes. pp. 18-20.
Effect of Zirconium on Cast Iron. Rebecca Hall. pp. 22-23.
Pouring Temperatures of Bronzes. Edmund R. Thews. pp. 24-25.
Spins Molds After Pouring. Edwin Bremer. pp. 26-28.
Calculate Weight on Chaplets. Warren A. Smith. p. 28.
Prevent Losses with Proper Gate and Risers. Pat Dwyer. pp. 41-42.
European Foundry Practice. p. 65.

Metal Industry (New York), May, 1934.

- Press Casting Brass and Other Copper Base Alloys. Charles Pack. pp. 155-158.
Non Ferrous Foundry Ingot Shapes. Pierce Barker. pp. 160-161.
Electro-Plating Costs and Estimating. pp. 163-165.
Casting Silver Cylinder. p. 166.
Grinding Aluminium. pp. 166-167.
The Electrochemical Society Meeting. p. 168.

The Metal Industry (London), April 13, 1934.

- Notes on Foundry Sands and Facings. F. A. W. Livermore. pp. 387-390.
Bright Annealing. p. 391.
Influence of Gases on Normal and Inverse Segregation. pp. 393-394.
Metal Finishes in Modern Architecture. S. Wernick. pp. 395-398.

The Metal Industry (London), April 20, 1934.

- High Frequency Induction Furnace. W. S. Gifford. pp. 411-414.
Field Tests on Corrosion. J. C. Hudson. pp. 415-418.
Discussion on the Manufacture of Castings for Electroplating Industry. pp. 421-424.

The Metal Industry (London), April 27, 1934.

- Embellishing Metals by Inlaying. pp. 435-436.
The Production and Treatment of Copper Precipitate. Part II. J. Caddick. pp. 437-439.
Field Tests on Corrosion. J. C. Hudson. pp. 441-443.

The Metal Industry (London), May 4, 1934.

- A New Analytical Method for the Metal Industry. Julius Grant. pp. 459-460.
Fluxes and Slags in Brass Foundry. T. Tyrie. pp. 461-464.
Discussion on the Influence of the Intercrystalline Boundary on Fatigue characteristics. H. J. Gough, H. L. Cox and D. G. Sopwith. pp. 465-468.
Paths of Past and Future Progress in Electrodeposition. R. S. Hutton. pp. 469-471.
The Electrodeposition of Tin from Sodium stannate Solutions with the Use of Insoluble Anodes. A. W. Hother-sall, S. G. Clarke and D. J. Macnaughtan. pp. 471-473.

Heat Treating and Forging, April, 1934.

- Burned and Overheated Steels. Joseph A. Duma. pp. 167-169.
Development of Materials for Poppet Valves. C. C. Hodgson. pp. 170-175.
Automobile Heat Treatments. J. W. Urquhart. pp. 176-177.
Simple Facts about Common Steel. J. R. Miller. pp. 178-181.
The Technique of Heavy Forgings. Capt. Ronald Benson. pp. 182-184.
Cementite in a Carburized Case. C. A. Stewart. pp. 185-186.
Achieving a National No-Accident Record. R. R. Howard. pp. 187-189.
Annealing Sheets. C. A. Edwards. pp. 190-193.
Rebuilt Furnace Saves Gas. pp. 195-196.
Calculation of Heat Losses Through Furnace Walls. R. H. Heilman. pp. 197-201.

Zeitschrift für Metallkunde, April, 1934.

- Über die Korrosion von Elektrolytzink und Raffinadezink. O. Bauer und G. Schikorr. s. 73-80.
Ein Zustandschaubild für Dreistofflegierungen. V. Fischer. s. 80-82.

Die Brinellhärte von Legermetallen. A. Våth. s. 83-86.
Im Schmelzfluss hergestellte Aluminium-Überzüge auf Eisen. H. Röhrig. s. 87-91.
Der Einfluss der Wärmebehandlung beim Aushärten und der langdauernden Lagerung auf die Eigenschaften einer Aluminiumlegierung. W. Schwinning und E. Dorgerloh. s. 91-92.

(若林)

Trans. Amer. Soci. for Metals. Vol. 22, No. 4, April 1934.

- Microscopic Cracks in Hardened Steel, Their Effects and Elimination, E. S. Davenport, E. L. Roff and E. C. Bain. p. 289.
Torsion Impact Properties of Hardened Carbon Tool Steel. V. Luerssen and O. V. Greens. p. 311.
Action of Oxygen and Hydrogen Sulphide on Iron-Chromium Alloys at High Temperatures. R. L. Rickett and W. F. Wood. p. 347-384.

Blast Furnace & Steel Plant, Vol. 22, No. 4, April, 1934.

- Air Conditioning for Mill Motors. V. A. Senrab p. 205.
Effect of Gas Velocity on the Blast Furnace. Part 2. S. P. Kinney. p. 209.
Finishing the Heat of Steel. Part 19. Crystallization of steel. J. H. Hruska p. 212.
The 3-Phase Electric Arc Furnace. Manufacture of alloy steels. S. Arnold. p. 214.
Economic of the Small Industrial Plant. E. R. Cate. p. 219.

Iron and Steel Industry, Vol. 7, No. 7, April, 1934.

- Distortion in Iron Castings on Cooling. Roberts. p. 223.
Acid Alloy Steel. Working a Ni-Cr-steel charge in the furnace. J. S. Newton. p. 225.
Commercial Moulding Sand Control for the Modern Iron-founder. F. Hudson. p. 229.
Welding Steel Structures. H. Schmuckler. p. 235.
Cracking and Fracture of Metals with Special Reference to Service Breakages. F. Bacon. p. 237.
The Relative Merits of Acid and Basic Steel. A. Williams. p. 241.
"Field Tests on Corrosion." C. Hudson. p. 247.

Archiv f. d. Eisenhüttenwesen, 7. Jahrg., Heft 10., April 1934.

- Berechnung des wirtschaftlichsten Gitters eines speichernden Wärmeaustauschers. K. Rummel. s. 547.
Die Analyse von hochprozentigen Ferrosilizium. P. Klinger. s. 551.
Die potentiometrische Bestimmung von Schwefel in Eisen, Stahl, Ferrolegierungen, Schlacken und Erzen. G. Thanheiser und P. Dickens. s. 557.
Vergütungsstahl als Werkstoff für Getrieberäder. R. Scherer. s. 563.
Die Aederung des Ferrits. E. Ammermann und H. Kornfeld. s. 567.
Wärmeinhalt und spezifisches Volumen der Eisen-Kohlenstoff-Legierungen. G. Tammann und G. Bandel. s. 571.
Der Einfluss nichtmetallischer Keime auf die Craphtausbildung im Gusseisen. Vererbungserscheinungen im Gusseisen und deren Ursachen. C. v. Keil, R. Mitsche, A. Legat und H. Trenkler. s. 579.
Der Wärmetönung beim Anlassen abgeschreckter unlegierter Stähle. H. Esser und W. Bungardt. s. 585.
Zementationsversuche mit verschiedenen Metallkarbiden. I. Gacff. s. 587.
Werden, Stand und Möglichkeiten des Lochkartenverfahrens auf Eisenhüttenwerken. G. Lehmann. s. 589.

Steel, Bl. 95, 1934.

- Manufacturing Appliances for Household Use. L. B. Nearley. No. 14, Apr. 2. p. 23.
High Speed Railway Cars Pioneer New Fields for Stainless. E. G. Budd. No. 15, Apr. 9. p. 23
Ford Uses Many Types of Furnaces in Forging Plant. J. B. Nealey. No. 17, Apr. 23. p. 25.
How Effective is a Cadmium Coating? J. S. Hoffman and L. J. George. No. 18, Apr. 30. p. 23.
Relationship of the Welding Art to the Steel Casting. R. A. Bull. p. 30.
Plastic Forming of metals. E. Siebel. & Hitchcock (Translator) Part 3, 2, 3, & 4. Apr. 2, 16 & 30.
Iron and Steel Inst., Journal, Vol. 128, 1933.
Co-ordinated Heat Conservation at the Normanby Park Steel Works, Scunthorp. W. J. Brooke. p. 15.

Notes on the Utilisation of Blast-Furnace Gas. W. B. Baxter. p. 71.
 Some Factors Leading to Greater Production from a Steel Furnace. A. Robinson. p. 109.
 Improving the Coking Performance of Weakly-Caking Coals. R. A. Mott and R. V. Wheeler. p. 135.
 A Coke Fired Reheating Furnace. F. Lloyd and R. V. Wheeler. p. 153.
 The Influence of Beryllium on Steel. J. H. S. Dickenson and W. H. Hatfield. p. 165.
 The Effect of Tin as an Impurity in Mild Steels. J. H. Andrew and J. B. Péile. p. 193.
 A Method for the Electrolytic Extraction of Slag from Iron and Carbon Steel. R. Tréje and C. Benedicks. p. 205.
 The Effects of the Pickling on the Properties of Carbon Steels. I. G. Slater. p. 237.
 The Thermal Conductivity of Wrought Iron, Steel, Malleable Cast Iron and Cast Iron. J. W. Donaldson. p. 255.
 Some Experiments on the Resistance to Wear of Nitrogen-Hardened Cast Iron. J. R. Hurst. p. 277.
 Alloys of Iron Research. Part II. The Constitution of the Alloys of Iron and Manganese. Marie L. V. Gayler. p. 293.
 Some Properties of Cold-Worked Sorbitic and Austenitic Alloy Steel Wire. S. H. Rees. p. 355.
 A note on the Effect of a Backward Pull upon the Tension Required to Draw Wire. F. C. Thompson. p. 369.
 The Effect on Various Steels of Hydrogen at High Pressures and Temperatures. N. P. Inglis and W. Andrews. p. 383.
 Discussion on "Fifth Report on the Heterogeneity of Steel Ingots," by a Joint Commi. of the I. & St. Inst. and the National Federation of I. & St. Manufactures. 409.
 Author's Reply to Discussion on "Recent Developments in American Blast-Furnace Design and Practice." Wm. A. Haven. p. 439.
 Author's Reply to Discussion on "Contribution to the Study of Inclusions in Steel." A. M. Portevin and R. Perrin. p. 443.

Stahl und Eisen, Jrg. 54, 1934.

Die Verschlackung des Mangans und Eisens in der Thomasbirne. O. Scheiblich. Heft 14, 5. Apr. s. 337/44.
 Die Einfluss der Zusatzbeheizung auf die Erwärmungsbedingungen der Blöcke und die Wirtschaftlichkeit des Stossofenbetriebes. O. G. Meyer. s. 344/48.
 Ueber die Verhalten des Spateisensteins bei der Röstung. W. Luyken und L. Kraeber. Heft 15, 12. Apr. s. 361/64.
 Die Verschlackung des Mangans und Eisens in der Thomasbirne (Schluss). O. Scheiblich. s. 365/71.
 Die Rekristallisation siliziumlegierten Weicheisens. A. Wimmer und P. Werthebach. Heft 16, 19. Apr. s. 385/92.
 Wertschöpfung der Eisen- und Stahlindustrie einschliesslich der Giessereien in den Jahren 1926 bis 1931. s. 392/96.
 Stand der Erzeugung der Dynamo- und Transformatorenbleche. W. Eilender und W. Oertel. Heft 17, 26. Apr. s. 409/14.
 Reduktionsversuche an Erzwürfeln im Wasserstoffstrom. W. Baukoloh und K. Froeschmann. s. 415/16.

(日下)

建築雜誌 第48輯 第584號 臨時增刊 昭和9年度
 リベットと銲接と併用したる接手の研究 内藤多伸外2名 (293)
 滿洲技術協會誌 第11號 第61號 昭和9年4月
 滿洲に於けるマグネサイト工業概説 田中 國益 (169)
 九州鑛山學會誌 第4卷 第4號 昭和9年4月15日
 非常時に對する吾人の覺悟と工業國產振興の急務(續き) 高 壯 吉 (219)
 衛生工業協會誌 第8卷 第4號 昭和9年4月
 衛生工業用材料品規格制定委員會第2回報告
 排水用鑄鐵管規格案 米元 晉一 (224)
 朝鮮鑛業會々報 第136號 昭和9年4月1日
 重要鑛山概況(5)
 朝鮮鑛山種々相(18)
 機械學會誌 第37卷 第204號 昭和9年4月

轉り接觸に於ける鋼の磨耗 西原利夫、小林俊郎 (187)
 高速鋼種別の選擇と作業能率 山口 貫一 (202)
 輕切削に於ける工具磨耗に就て 佐々木榮一 (206)
 燒入鋼中の殘留オーステナイト量の磁氣的研究 三上美和吉 (217)

電氣製鋼 第10卷 第4號 昭和9年4月15日
 鋼塊の冷却に就て 菊田多利男 (121)
 電氣爐の耐火材に就て(其の3) 大垣 梅雄 (133)
 鋼の臨界溫度(A_{c_3})と各種元素との關係 N 生 (137)
 採鑛冶金月報 第12年 第4報 昭和9年4月23日
 亞酸化銅の粒子細微度 渡邊俊雄、田川 昇 (83)
 錫鑛の濕式製鍊(8) 野滿 朝亮 (91)
 北海道炭礦に於ける坑内開發法と坑内保安(2) 伊藤 憲吉 (94)

日立機械評論 昭和9年4月 第16號
 日立 H 號銲接棒 齋藤 哲夫 (80)
 日立評論 第17卷 第4號 昭和9年4月25日
 日立複式電弧銲接機 中村 元和 (185)
 工業之日本 第31卷 第4號 昭和9年4月5日
 砲彈と鐵工業 馬淵 良逸 (15)
 硫黃鑛時代の再來 鑛業課調査 (21)
 英國に於ける科學及工業研究機關の統制 篠田 鏢 (23)
 日本鑛業會誌 第50卷 第588號 昭和9年4月
 鑛業經營に於ける合理化と統制 後藤 保清 (323)
 タンニンの浮游選鑛法に及ぼす作用 岩谷東七郎 (333)
 鋼索の研究 主として不反覆熱鋼索の有利用に就て 永田 準一 (353)

日本化學會誌 第55帙 第4號 昭和9年4月28日
 アントラニル酸に依る金屬の定量(熱天秤に依る重量分析研究 其19) 石丸 三郎 (288)
 硫化水素による金屬の定量的分離に關する研究(第3報) 硫化水素による亞鉛、鐵の定量的分離及び ZnS による FeS の誘導沈澱に就て 加藤 久次 (293)
 熔融用坩堝に就て 北島 一平 (302)
 アンチモン及び白金族元素の定量(熱天秤による重量分析研究 其20) 後藤 秀弘 (326)
 硫化水素による金屬の定量的分離に關する研究(第4報) 硫化水素による銅タリウム定量的分離及び CuS による Tl_2S の誘導沈澱 加藤 久次 (331)
 硫化水素による金屬の定量的分離に關する研究(第5報) 硫化水素による Ni , Zn と Mn の定量的分離に就て 加藤 久次 (337)
 硫化水素による金屬の定量的分離に關する研究(第6報) 鐵とマンガンの新定量的分離法に就て 加藤 久次 (345)

應用物理 第3卷 第5號 昭和9年5月1日
 本邦に於ける耐久磁石の研究 本多光太郎 (161)
 金屬の電氣的性質と波動力學 Leon Brillouin (芝 龜吉譯) (170)

鞍山鐵鋼會雜誌 第49號 昭和8年12月
 本邦産珪石煉瓦の物理的性質(1) 三田 正揚(1063)
 鞍山鐵炭製造用石炭の乾餾試驗報告(其の2) 撫順 80%, 本溪湖 10% 配合炭に就て 丸山智明外2名(1086)
 製鋼工場地盤耐壓試驗報告 渡部 廉(1105)
 製鋼工場用地盤、土壤水分測定結果 丸山智明、溝口五一(1107)
 鞍山鐵鑛石の還元に就いて(5) 三田 正揚(1110)
 液體空氣、酸素、窒素並に稀有瓦斯(6) 久留島秀三郎(1115)
 酸化鐵燒結鑛の組織と還元性(1) R. S. 生(1137)

燃料協會誌 第13年 4月號 昭和9年4月30日
 ベンゾールに關する特輯號 高温タールよりベンゾールの生成に就て 新村唯治、野村秀雄 (428)
 東京工業大學々報 第3卷 第4號 昭和9年4月
 コバルトアムモニア錯鹽水溶液の水素イオン濃度と吸收スペクトル 1) 植村 琢、末田秀夫 (197)

- 人造及び天産二酸化マンガンの研究¹⁾ 私家製品と
不變乾電池 加藤興五郎、松橋太郎 (228)
- アルミニウム原料よりアルミナの製造—硫酸法、特に
難溶性珪酸鹽よりの製造提案¹⁾ 加藤興五郎 (234)
- 金屬** 第4卷 第5號 昭和9年5月1日
鋼の焼入に伴ふ膨脹に就て 村上武次郎 (147)
鋼の浸炭硬化作業 久保田 豊 (155)
- 銲接協會誌** 第4卷 第2號 昭和9年4月
アルミニウム及びその合金の電弧銲接 (第1報)
岡本 越外 2名 (68)
銲接による蒲板の歪曲の研究 (第1報)
森永卓一、瀧本長輝 (90)
- 理化學研究所彙報** 第13輯 第5號 昭和9年5月
石炭の液化について (其1) 磯部 甫、常谷章雄 (340)
硝酸による鐵及鋼の受働態に関する研究 (第1報)
山本 洋一 (375)
- 金屬の研究** 第11卷 第4號 昭和9年4月
金屬及び合金の内部歪による磁氣係數の變化に就て
清水興三松 (159)
砂鐵及び合チタン磁鐵鑄の新磁氣選鑄法
(砂鐵、第28報) 齋藤 雄治 (175)
 $TiCl_4-CCl_4$ 、 $TiCl_4-SiCl_4$ 及び $TiCl_4-SnCl_4$ 系の
沸點曲線 (砂鐵、第29報) 那須 信行 (193)
蒼鉛の75°Cに於ける變態に就て 青山新一、門奈五兵 (203)
定性分析に於ける燐酸根の影響除去に関する研究 (第
4報)¹⁾ 燐酸鹽法、砒酸鹽法及び燐酸鹽新法 石丸 三郎 (210)
- 工業雜誌** 第70卷 第881號 昭和9年5月1日
抗張試験片の寸法と伸び率及び斷面收縮率との關係
竹中二郎、中村仲二 (190)
- 研究報告** 昭和9年4月 三菱航空機株式会社
 $Ni-Cr$ -空氣焼入鋼の疲勞に對する表面酸化狀態の
影響 (其1) 石澤命知、尾形康夫 (29)
 $Ni-Cr$ -空氣焼入鋼の疲勞に對する表面酸化狀態の
影響 (其2) 石澤命知、尾形康夫 (36)
素材としての Duralumin 渡瀬 常吉 (41)
- 石炭時報** 第9卷 第5號 昭和9年5月5日
用途別需要より觀たる日本石炭の過去、現在及將來
渡邊 四郎 (2)
石炭の自己粘結に就て 森 政保 (20)
關西共同水力、尼崎發電所の石炭運搬設備に就て
松田 和三 (30)
滿洲の炭田概要 (2) 近藤 正郎 (44)
- 鑄物** 第6卷 第5號 昭和9年5月
耐火壓薄肉鑄鋼品の鑄造法に就て 海軍鑑政本部 (309)
センメト鑄型に就て 朝鮮總督府鐵道局京城工場 (311)
川口の先輩を憶ふ 諏訪常次郎 (315)
鼠鑄鐵の熱處理に就て 山本 光男 (320)
- 機械學會誌** 第37卷 第205號 昭和9年5月
材料の疲勞過程に於ける機械的性質の變化と疲勞の
恢復に就て 山田良之助、松岡陽三 (273)
金屬材料破壞過程の研究 (報告その2) 兒玉 元一 (282)
- 電氣化學** 第2卷 第5號 昭和9年5月
電氣化學工業と高熱工業 中澤 良夫 (171)
亜鉛鍍金の均一電着性に就て (第3報) 硫酸亜鉛水溶液
に於ける均一電着性の研究 中島 正巳 (176)
- 滿洲冶金學會會報** 第2號 昭和9年4月
滿庵鋼注砂管の鑄造に就て 水内 昇一 (1)
冷剛車輪の鑄造に就て 服部 信次 (1)
- 造兵彙報** 第12卷 第5號 昭和9年5月1日
クローム鍍金を施せるゲージ類の實用的研究
大阪工廠鐵材製造所 (1)
- 電氣學會雜誌** 第54卷 第550號 昭和9年5月14日
電線用輕合金アルドレイ (Aldrey) に對する鐵の影響
岸野佐吉外 2名 (343)
- 刃物焼入用電熱鹽類槽 伯野 慶三 (441)
- 電氣評論** 第12卷 第5號 昭和9年5月10日
金屬マグネシウム電解製造法 加藤興五郎外 2名 (309)
銲接用直流發電機の實驗的研究 岡本 越外 2名 (349)
- 採鑛冶金月報** 第12年 第5號 昭和9年5月15日
北海道炭礦の採炭法 伊藤 憲吉 (107)
- 日立評論** 第17卷 第5號 昭和9年5月25日
鑪の復活 工藤 治人
交流電弧銲接機 福永 滿 (213)
- 電氣製鋼** 第10卷 第5號 昭和9年5月15日
シェラーダイズング (亞鉛に依るセメンテーション)
加瀬 勉 (163)
水素の鐵及鋼の變態點に及ぼす影響 丹治 道生 (190)
- 朝鮮鑛業會々報** 第137號 昭和9年5月1日
昭和八年度の産金獎勵實績 (5)
浮游選鑄に於る二つの試み (7)
- 工學彙報** 第9卷 第1號 九州帝國大學 昭和9年4月
測定望遠鏡精密整原理 田中 吉郎
- 金屬の研究** 第11卷 第5號 9年5月
發散電子による金屬變態の研究 早川 數馬 (219)
焼入鋼中の殘留大洲田量の磁氣的的研究 三上美和吉 (235)
金屬セメンテーション (第2報) アンチモンに依る
セメンテーション (I) 加藤 勉 (251)
- 日本鑛業會誌** 第50卷 第5S9號 9年5月
昭和8年本邦鑛業の趨勢 井上匡四郎 (397)
昭和8年本邦鑛業上の重要事項 山口六平外 13名 (402)
本邦石油井の産油に關する統計的研究 野本 清一 (430)
- 衛生工業協會誌** 第8卷 第5號 9年5月
鑄鐵罐出力規格に就て (299)
- 應用物理** 第3卷 第6號 9年6月
磁化された鐵單結晶の粉模樣 茅 誠司
金屬の疲勞破壞に關する考察一三 池田 正二
- 金屬** 6月號
アルミニウム及アルミニウム合金の顯微鏡組織
西村 秀雄 (179)
鋼の焼入に伴ふ膨脹に就て 村上武次郎 (185)
- 日本化學會誌** 第55帙 第5號
アルミニウムの重量分析 (第4報) エチルアミン
及び其炭酸鹽に依るアルミニウムの定量法 高津 壽雄 (437)
アルミニウムの重量分析 (第5報) メチルアミン
及び其炭酸鹽に依るアルミニウムの定量法 高津 壽雄 (447)
- 造兵彙報** 第12卷 第6號
電氣銲接の利用に就て 渡邊吉太郎 (1)
研磨、琢磨及矢通作業法の研究 千種兵器製造所 (1)
電弧銲接作業に必要な2,3の注意事項に就て
大阪工廠庶務課 (31)
特殊黃銅の研究 大阪工廠鐵材製造所 (43)
- 東京工業大學々報** 第3卷 第5號
マグネシア耐火物に就て (第2報) 化學組成と
品質との關係 近藤清治、吉田 博 (274)
含銅硫化鐵より硫酸製造用亞硫酸を製すると同時に
銅を回收する1新法—芒硝法 加藤興五郎、武井 武 (289)
- 海外經濟事情** 昭和9年 第22號
上海各種工業採業狀態
(昭和9年5月26日著在支、横竹商務參事官電報)
洋灰工業現狀 (廣東省)
(昭和9年4月30日附在廣東川越總領事報告)
伊國アルミニウム工業の現狀と製品の使用振及其貿易狀態
(昭和9年4月16日附在未蘭、井上領事報告)
- 理化學研究所彙報** 第13輯 第6號
硝酸による鐵及鋼の受働態に関する研究 (第2報)
山本 洋一 (616)
- エンチニヤリング** Vol. 22, No. 6
金屬電弧銲接設計法 (4) 三好 巽 (210)